

「第二次小樽市観光基本計画(素案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

1 意見等の提出者数	8人、1団体
2 意見等の件数	31件
3 上記2のうち計画等の案を修正した件数	3件
4 意見等の概要及び市の考え方	

No.	意見等の概要	市の考え方等
1	この計画の担い手が高齢者である可能性が高いため、その高齢者の役割に関わる配慮が必要と思う。	この計画の方向性のうち「小樽の魅力を共有する」の各施策を実施にあたり、高齢者の方にも観光に関心をもっていただき、可能な範囲で関わっていただけるよう工夫するなど、御指摘の点につきまして対応してまいりたいと考えております。
2	観光振興に関わる土地や建物の賃借料や使用料について、疑問を感じる請求もあり、実態の把握と対策を検討したほうが良いと思う。	この計画の施策のうち「小樽に点在する観光資源のニーズを捉えた磨き上げと発掘」という項目があり、その取組の中で御指摘の点につきまして十分配慮し取り組んでまいりたいと思います。
3	市内の交通網の充実を魅力として挙げているが、必ずしもそうではない部分があると思うので、交通網の実態について、利用者視点で把握と検討を行ったほうが良いと思う。	この計画の施策のうち「観光客が快適に過ごせる環境整備」という項目があり、その取組の中で御指摘の点につきまして十分配慮し取り組んで参りたいと思います。
4	観光時の病気発症や事故の対応などについて、特に外国人観光客が快適に過ごせる環境整備を検討する必要があると思う。	この計画の施策のうち「観光客が快適に過ごせる環境整備」という項目があり、その取組の中で御指摘の点につきまして十分配慮し取り組んで参りたいと思います。
5	札幌や余市にビジネスで訪れる人が、出張経費の範囲内で手軽に宿泊できる所がないという話があるようだが、このようなビジネス目的で近隣市町村を訪れる人も、小樽の観光客となる可能性があり、実態の把握と検討する価値があると思う。	この計画の施策のうち「観光客が快適に過ごせる環境整備」という項目があり、その取組を進める中で、御指摘の点につきまして十分配慮し取り組んで参りたいと思います。

No.	意見等の概要	市の考え方等
6	この計画には、良好な景観の形成や都市計画の観点が入っていない。長期的には、ソフト面の施策だけでなく、人口減少を見越して、それを逆手にとって観光地の中に住宅が点在しないように抑制しながら観光地の街並みを整備することが重要だと思う。	この計画では、体験プログラムの構築、広域での観光圏の形成及び市民の皆様の観光地づくりへの参加を方向性の柱としており、都市計画としての観光地づくりにつきましては言及していませんが、御指摘のありました人口減少を見据えた観光地づくりにつきましては、市関係部署の施策等を見極めながら、調査・研究して参りたいと考えております。
7	観光客にとって魅力的な景色に、高層マンションなどが建ってしまうと、景観が大きく損なわれるので、事前に抑制することが重要ではないか。少なくとも、建物の高さ制限は最低限必要である。	御指摘の点につきましては、既存の小樽市景観計画や小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例の施行など、関係部署と連携しながら対応してまいりたいと考えております。
8	観光客の素朴な感動ポイントを観察して、それをより良く整備するための施策が必要だと思う。	この計画の主要施策で「小樽に点在する観光資源のニーズを捉えた磨き上げと発掘」という項目がありますので、その取組の中で御指摘の点を対応したいと考えております。
9	この計画の目指すべき「ホンモノの小樽とふれあう」を実現するために、より一層市民・関係団体が密に連携をとりながら進めていく必要があり、そのための場を作り、協議を継続的に続ける必要があると思う。	この計画の主要施策で「観光への意識を高める活動の推進」という項目があり、その中で、市民や団体を対象とした各種講演会やワークショップなど、「観光」を考える場の提供という取組があり、その取組を進める中で、御指摘の点につきまして十分配慮したいと思えます。
10	第一次計画の総括(計画内容の達成度の検証等)が見当たりません。どのような成果を引き継ぎ、見直しを行ったうえで今後10年の観光基本計画を策定したのか了解できるように説明を盛り込んでいただきたい。	第一次観光基本計画の総括については、「第6次小樽市総合計画中間点検報告書」や「小樽観光戦略構想」などで、検証・点検を行っているところでありますが、総括内容については、本計画書冒頭の前書きの中で、触れてまいりたいと考えております。
11	「国内や小樽の観光の動向」については、「資料」として扱うのではなく、本計画の本文の中に重要な項目の一つとして章を設けて計画を組み立てていただきたい。各種データの解説だけではなく、それを踏まえて小樽市は、小樽観光の現状をどのように分析、把握しているのかについても言及していただきたい。	第二次小樽市観光基本計画提言書においては、「国内の観光動向と小樽観光の現状」を本文中に置いており、現状分析を踏まえたうえで計画案を策定したのですが、策定委員の中からも資料として後段に掲載した方がわかりやすいというご意見もあり、後段に資料としてまとめたものです。市としての現状分析、把握につきましては、本計画書の本文(課題)や資料に記載のとおりです。

No.	意見等の概要	市の考え方等
12	総合計画で示した3本の施策を含め総合計画と本計画が具体的にどのように関連しているのか、説明する記述を盛り込んでいただきたい。	第6次小樽市総合計画中の5)観光の施策の体系(1)時間消費型観光への移行、(2)受入れ体制の整備・充実、(3)観光客誘致の推進 は、観光振興に不可欠で基本的な3本の柱であり、それらが十分に実施されていないければ課題となり、推進すべきものとして、その方向性を示しているものと考えます。本計画において、この3本柱はP.6～7の3つの方向性と各々重なることから、関連性についての具体的説明の記述がなくても理解されるものと考えております。
13	何をもって「ホンモノ」と言うのか定義すべきではないでしょうか。	「ホンモノ」の定義は、本計画素案P.2に記載しておりますように、「小樽独自の歴史や文化に裏打ちされた奥深さこそがホンモノの小樽である」と考えております。さらに、より具体的なイメージが浮かぶようにP.3の1面を使用して各種具体例を記載しているものです。
14	小樽市民の「義理人情」とはどのような性格や心情を指しているのか説明がされていません。しかも、第2章主要施策のどこに「秘められた可能性」を展開する取組として計画されているのでしょうか。また、なぜ、小樽市民の日常が観光客のふれたいものになるのか、意味不明です。本計画推進の主体である市民にも誤解されることなく、理解し、気付ける表現になるよう再考していただきたい。	「義理人情」とは、義理堅く人情に厚い小樽人気質のことですが、「秘められた可能性」を展開する取組としては、主要施策P.12②観光への意識を高める活動の推進(3つ目)、P.13④市民が観光客とふれあう機会の提供(3つ目、4つ目)に取組として計画されています。 小樽市民の日常が観光客のふれたいものになるのかについては、御指摘を参考に、「例えば、雪を見たことのない海外からの観光客にとっては、雪景色はもとより、除雪や冬着など冬の市民生活自体が新鮮な非日常であり、魅力となります。」などの説明をP.3に加えるよう修正いたします。
15	スピード感を持って取り組む事業や小樽市として特に力を入れて取り組む事業などを、短期、中期、長期と時期を分けて明記していただきたい。	第二次観光基本計画においては、新たに主要施策・主な取組とともに今後10年の事業計画イメージを掲載しました。確かに、全体の6割強の取組が全期間を通じて取り組む事業となっておりますが、具体的な施策の実施にあたりましては、御指摘を参考に、本市観光を取り巻く状況等を踏まえて、優先順位を付けて実施してまいりたいと考えております。
16	受入態勢について、駐車場の整備が必要であると思う。	この計画の主要施策で「観光客が快適に過ごせる環境整備」という項目があり、その取組の中で御指摘の点につきまして十分配慮し取り組んで参りたいと思います。
17	小樽での滞在時間を増やすために朝市の検討をお願いしたい。朝市があれば必然的に宿泊や夜の観光につながると思う。	この計画の主要施策で「小樽に点在する観光資源のニーズを捉えた磨き上げと発掘」や「市民が観光客とふれあう機会の提供」という項目があり、その取組の中で御指摘の点につきまして既存の市場の魅力の発掘・情報発信などと併せて、調査・研究して参りたいと思います。

No.	意見等の概要	市の考え方等
18	Wi-Fiの設置について小樽はまだまだ発展途上と思うので、民間の方にも設置を働きかけたほうが良い。また、ユーザーがネットに接続した場合、小樽の観光サイトが冒頭に表示されるような仕組みを構築していただき、そこにリアルタイム情報が表示されることで予定外の滞在意欲を誘発していただきたい。	Wi-Fiの設置につきましては、この計画の主要施策で「観光客が快適に過ごせる環境整備」という項目があり、その取組の中で御指摘の点につきまして対応してまいりたいと考えております。また、小樽の観光サイトが冒頭に表示されるような仕組みの構築については、主要施策の「滞在型観光に向けたプランの拡充」という項目の取組の中で、調査・研究してまいりたいと思います。
19	小樽観光で目標とするべきは経済効果ではないだろうか。「観光による経済効果を上げるための課題」として必要な項目や方策を示していかないと読み手はわからないと思います。	この計画の課題については、目指すべき姿である「ホンモノの小樽とふれあう」を達成するための課題として、策定委員会の意見を基に整理しております。御指摘の経済効果の点につきましては、計画の中の「これからの小樽観光の推進体制づくり」の推進体制の中で、取組の効果測定を行うことのできる新たな観光推進組織の整備を進めることとしておりますので、この体制の下で対応してまいりたいと考えております。
20	小樽観光の方向性が課題に対する解決策と対応しておらず構成として違和感を感じる。小樽の魅力発信についても当たり前なので、あえて掲載する必要がないと思う。	この計画の方向性については、目指すべき姿である「ホンモノの小樽とふれあう」を達成するためのアプローチとしての方向性としております。また、小樽の魅力発信についての取組などは、取組の詳細を示すものとして必要と判断し掲載しているところでありますので御理解願います。
21	主要施策個別について、施策自体の是非ではないが、課題や方向性と関係ない項目も入っており唐突観が否めない施策もある。	主要施策については、策定委員会の議論も含め、様々な視点での内容が盛り込まれており、御指摘のとおり唐突な施策もあるかもしれませんが、目指すべき姿を達成するために必要と考え盛り込んでおりますので御理解願います。
22	P3上部に「市民の「実直さ」、「頑固さ」、「義理人情」などの気質も小樽独自の歴史・文化であり、市民の生活、市民のなりわいそのものが魅力であり、ホンモノの小樽と言えます」と記載され、美点をあげています。一方、P4課題(2)受け入れ体制の部分に、「外国人に対して「言葉が分からない」「面倒くさい」「関わりたくない」という意識を強く持つ人もいる」と問題点が記載されています。このように美点と問題点は、表裏一体と読み取ることができ、何がホンモノで、何が問題点なのかわかりづらい。	御指摘の前半のP3の記述については、小樽の魅力である地域資源や産業遺産などを古くから守りぬいてきた小樽の人びとの気質についての記述であり、後半のP4の問題点については、特に外国人観光客が多い最近の傾向を背景とした課題としております。これらは、それぞれ別個の項目であると考えておりますので御理解願います。
23	市民の役割について、P7下部右側に「市民が小樽の魅力に気付き愛着を持つ」の部分が現在の市民が小樽に愛着を持っていないというように誤解されると思う。また、市民の役割の記載についても同様の誤解を生むのではないだろうか。	P7下部右側の記載につきましては誤解を招くことのないよう「市民がより小樽の魅力に気付き、さらに愛着を持つ」という表現に変更し、またP14市民の役割の部分につきましては、「郷土に対する愛着と誇りをもって」の部分で「郷土に対するさらなる愛着と誇りを持って」という表現に変更いたします。

No.	意見等の概要	市の考え方等
24	市民と観光客が小樽の魅力を共有して、小樽市民側には何が得られるのか。	市民と観光客が日常的に交流し、小樽の良さをともに分かち合うことにより、市民もより一層の誇りを持つとともに、観光客の持つ違った目線から、新たな小樽の良さに気付くなど、文化交流をはじめ、豊かな生活の実現につながるものと考えております。
25	本計画の推進にあたって、行政の役割は多大なものがあり、既存の職員に仕事を増やすのではなく、地元での正社員雇用促進という意味合いでも、小樽市が率先して正規職員の数を増やし、また、各観光団体、経済界に対しても正社員の雇用を求めることが必要と思う。	観光振興の推進により、経済波及効果を高め、雇用につなげて参りたいと考えておりますが、正規職員の雇用につきましても、今後具体的な取組の業務量などにより検討する事となりますので御理解下さい。各観光団体、経済界に対しての正社員の雇用につきましては、御指摘の点につきましてお願いしてまいりたいと思います。
26	本計画の推進にあたっては、目指すべき姿を基準に個別の達成目標を設定し、それぞれに必要なアプローチをするものとする。ただ10年間がんばり続けるのではなく、予算額や観光入込客数などの何らかの目標は設定してほしい。また、可能であれば現状維持に比べてどのくらいの成果が見込まれるかわかるようにできないか。	御指摘の達成目標の点につきましては、計画の中の「これからの小樽観光の推進体制づくり」の推進体制の中で、取組の効果測定を行うことのできる新たな観光推進組織の整備を進めることとしておりますので、この体制の下、対応してまいりたいと思います。
27	計画素案の取組などで、10年間のうち数日だけ活動するだけで「施策を実施した」という報告書の作成が可能であると思う。その程度の施策であれば計画から削除し、幹の部分をもっと厚くしたほうが良いのではないか。	今回の第二次計画では、各施策に対しての取組を具体的に記載し、推進することとしております。また、取組の中の実施状況については、取組状況の検証においてPDCAサイクルの確立を目指しており、その制度の中で、実効性の乏しい取組につきましては順次見直してまいりたいと考えておりますので御理解願います。幹の部分の厚みにつきましては、本計画の「これからの小樽観光の推進体制づくり」の推進体制の中で、取組の効果測定を行うことのできる新たな観光推進組織の整備を進めることとしておりますので、この体制の下、計画に厚みを持たせていきたいと思っております。
28	20ページ目に記載されている各種来客数・宿泊数について、人数が多いのか少ないのかは判りますが、「キャパシティに対して占める割合が高いのか低いのか」は判りません。絶対数の提示は重要ですが「比較可能な比率」を採用するものと思っております。	御指摘の資料につきまして、数値資料がありませんでしたので、素案のおりとなっております。今後、調査し、どういった指標が望ましいのか計画の資料として掲載できるよう務めてまいりたいと思っております。
29	政府が、東京オリンピックが開催される2020年度には約2倍の訪日外国人旅行者を誘致するという数値目標の実現性は高いものと予想します。小樽市は、先頭に立ってこれを主導するべきです。各種の数値目標を強気で提示するとともに、投資の実績額と予算額を概算ベースで記述しつつ、そのときの効果やコストパフォーマンスを提示して欲しいです。	本計画において、訪日外国人旅行者を誘客することの重要性は、策定委員会でも議論され、各施策や取組などに反映しており積極的に推進したいと考えております。各種目標数値と効果等につきましては、計画の中の「これからの小樽観光の推進体制づくり」の推進体制の中で、取組の効果測定を行うことのできる新たな観光推進組織により対応したいと考えております。

No.	意見等の概要	市の考え方等
30	<p>小樽市民の観光客に対する姿勢を中傷する記述が目立ちます。観光客の存在がめぐりめぐって小樽市民の生活の場に還元される、よって結果的に小樽市民は観光客と仲良くなる、というストーリーで再構築されることを望みます。</p>	<p>御指摘の点に関しまして、P4受入態勢の記載で「観光施設に従事するスタッフの中には、外国人に対して「言葉が分からない」「面倒くさい」「関わりたくない」という意識を強く持つ人もいるなど」という部分を「一部に」に変更し、P7下部右側の記載につきましては誤解を招くことのないよう「市民がより小樽の魅力に気付き、さらに愛着を持つ」という表現に変更するとともに、P14市民の役割の部分につきましては、「郷土に対する愛着と誇りをもって」という表現に、変更いたします。また、御指摘後半部分につきましては、本計画の目指すべき姿について、観光客と市民がふれあうことを前提としており、その目的が達成され小樽が観光地として発展するよう尽力してまいりますので御理解願います。</p>
31	<p>本計画において、概算目標を数字で示すべきではないか。また、各課題について何がどうなれば課題解決として見なすのか数値目標と根拠を示すべきです。</p>	<p>御指摘の目標数値の点につきましては、計画の中の「これからの小樽観光の推進体制づくり」の推進体制の中で、取組の効果測定を行うことのできる新たな観光推進組織の整備を進めることとしておりますので、この体制の下対応してまいりたいと思います。</p>

* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。